研究ノート

文章表現における自己評価に関する調査分析
- 大学初年次教育における日本語アカデミックライティングについて -

Survey analysis on self-evaluation in written expression
– Japanese academic writing in first-year university education–

京　祥太郎*
MIYAKO，Shotaro*

概要：本稿では，本学経済学部の「基礎リテラシー（国語）」を履修している学生のレポート課題についての自己評価と教師評価の差異を検証した上で，客観的評価としての日本語筆記試験との関連を調査分析した。その結果，自己評価については中心化傾向が見られ，教師評価との差異がある学生も一定数存在していることが，また，レポートの形式面（構成・表現等）については国語力が不十分な学生には困難に思う学生もいることが明らかになった。

１．はじめに

文部科学省の中央教育審議会は，2008 年の「学士課程教育の構築に向けて」（答申）において「学士」 の学位によって保証されるべき一定の能力を「学士力」という言葉で表現し，学士力に関する主な内容として，知識・理解，汎用的技能，態度・志向性，総合的な学習経験と創造的思考の 4 つの分野に分類した。

城西大学経済学部の初年次教育科目である「基礎リテラシー（国語）」では，この「学士力」の汎用的技能を踏まえ，授業目標・目的を「日本語の常識的基礎知識の習得を基に，専門分野の論理的理解および自己表現が無理なくできるための国語力，文章力を身につけることを目標とする。（汎用的技能）」としている。

大学教育における文章力の育成が求められている中，これらについては今までも様々な研究がされてきたが，その中でも特に汎用的技能に着目したとされるパフォーマンス評価に適しているルーブリックを用いての自己評価力を高める方策についての研究が近年増加している。

例えば，岩田・田口（2020）は，他者の視点を取り入れて自己評価を見直す機会になるよう，自己評価とピアからの評価の得点やその根拠が異なった個所について異なった理由を協議するワークを取り入れた相互評価活動を開発している。

本田（2017）は，伝統的な一方通行型講義において，授業外学習の中にピアデビューを設定し，繰り返しレポート執筆を行い，アカデミックライティングのスキルを向上させるという取り組みを行っている。さらに，評価すること，されることに慣れていない学生に対して，評価の観点と水準をわかりやすく示すためのルーブリックを活用し，自己評価および他者評価に用いた報告がなされている。

西谷（2017）は，評価指標として知られているルーブリックを教育実践として活用し，学生の文章

作成* 城西大学経済学部

過程において「論理性」や「説得性」を意識させることができたという。また，ルーブリックによって教育の評価指標を提示することで，評価の観点を学生に事前に理解させることができ，また学生が成果と評価結果とを対置し，自身の能力および達成度を鑑みることで自己評価や自己調整を促すことが可能であると言及している。

そこで，本研究では，汎用的技能を伸ばす試みとしてレポート課題をさせた際の学生の自己評価と教師評価との差異について，また，客観テストとして実施した筆記試験との結果との関連について調査分析した。本研究では，自己評価と教師評価の差異についてだけでなく，国語力との関係を分析したことに特徴がある。

２．科目「基礎リテラシー（国語）」の概要

2.1　授業の特徴

ここでは簡単に「基礎リテラシー（国語）」の授業の特徴について述べる。

「基礎リテラシー（国語）」の授業では共通のテキスト『基礎リテラシー（国語）』(2020, 城西大学）を使用している。このテキストは 3 部から構成されており，第 1 章は「語彙力・表現力をアップさせる」とし，同意語（同義語・類義語），対義語（反対語・対応語），同音異義語・同訓異字，ことわざ・故事成語，慣用句，四字熟語を，第 2 章は「言葉の運用力をアップさせる」とし，文法，敬語を，第 3 章は「文章読解力をアップさせる」とし，文章の構成パターンを見極めたり，読解力を上げるための正確な読解のためのポイントを確認したり，選択肢のある問題での読解のテクニックについて取り上げている。以下は授業全 15 回の流れと内容である。

第 1 回　ガイダンス（授業内容と展開について）
第 2 回　語句①：同義語・類義語について理解できる
第 3 回　語句②：対義語について理解できる
第 4 回　語句③：同音異義語・同訓異字について理解できる
第 5 回　語句④：ことわざ・故事成語について理解できる
第 6 回　語句⑤：慣用句について理解できる
第 7 回　語句⑥：四字熟語について理解できる
第 8 回　文法①：文法の成分について理解できる
第 9 回　文法②：品詞について理解できる
第 10 回　文法③：敬語について理解できる
第 11 回　文章読解①：文章の構成パターンを見極めることができる
第 12 回　文章読解②：選択肢のある問題での読解テクニックを身につけることができる
第 13 回　文章読解③：ものごとを客観的に捉え、考え、問題解決に至ることができる
第 14 回　文章読解④：自分の考えを、筋道立てて、正確かつ分かり易く伝えることができる
第 15 回　総まとめ・試験：講義の内容が理解できかたかどうか確認できる

2.2　授業の内容

第 14 回の授業では「自分の考えを，筋道立てて，正確かつ分かり易く伝えることができる」を目的に授業を行った。第 14 回の授業の内容は以下の通りである。

(1) レポートと作文の違いとは
(2) 論の構成（序論・本論・結論の例）
(3) 書く際の注意点
(4) 実際に書いてみよう

まず，(1) レポートと作文の違いとして「作文・感想文」と「論文・レポート」との違いを解説し，感じたままを自由に書く感想文（作文）と小論文（レポート）は似て非なるものであることを，また，一定の「作法」に基づいて書かなければならないこと説明した（表 1)。

表 1　小論文と感想文（ヒューマンアカデミー，2021）

	内容	求められること	書き手が読み手に求めること
小論文（レポート）	思考を述べる	表現の分かり易さ，論理展開の整合性，根拠の妥当性	書き手の主張に同意すること
感想文（作文）	感情を述べる	表現手段の面白さ，論理展開の意外性，根拠のオリジナリティ	書き手の感じたことに共感すること

次に，(2) 論の構成（序論・本論・結論の例）について、大学生に求められる文章力とは，①ものごとを客観的に捉え，考え，問題解決に至ることができる，②自分の考えを，筋道立てて，正確かつ分かりやすい言葉で伝えられる，であると説明した。文章構成を考えるにあたっては，基本的な全体の構成をイメージさせた（図 1)。

第 1 段落（序論）…主張
第 2 段落（本論①）…主張を支える説明（根拠・具体例等）
第 3 段落（本論②）…予想される反論とそれにたいする意見
第 4 段落（結論）…主張（全体のまとめとして，自分の意見を繰りかえす）

図 1　基本的な構成（ヒューマンアカデミー，2021）

理由を述べたり反対の立場について取り上げたりする際に使用する論理関係を示す接続詞の例として，代表的なものを紹介した。

＜理由＞なぜなら
＜対比＞一方，反面
＜逆接＞しかし，だが，にもかかわらず
＜並列＞かつ，および
＜添加＞さらに，そのうえ
＜例示＞例えば
＜総括＞このように，よって

それから，(3) 書く際の注意点として、以下の点を注意するように指導した。

①書き始める前
・問題（設問）を正確に理解すること
・（立場と）意見（主張）とその根拠になるものをメモすること
②書いている最中
・論理的に簡素に述べること
・表現や表記，文法の誤りに気を付けること
③書き終わった後
・見直しをすること

最後に (4) 実際に書くにあたって，まず，問題（設問）をよく読ませ，正確に理解させた。レポート課題の問題（設定）については以下の通りである。

＜設問＞　飲食店での喫煙について，「室内全面禁煙」という意見と，「喫煙室設置による分煙」という意見があります。あなたはどちらの意見ですか。どちらの立場になって，理由を挙げて考えを 400 字から 500 字で書いてください。

（立場と）意見（主張）とその根拠になるものをメモする活動では，「室内全面禁煙」にした場合の長所・短所，「禁煙室設置など分煙」にした場合の長所・短所には，どのようなことが考えられるかをピア活動で行った。図 2 のようなレポートの型を提示し，まずは型に沿って書いてみるよう指導した。

（注：＿＿＿＿および〰〰〰〰には、同じ言葉が入ります）

序論：

私は飲食店やオフィスでの喫煙について＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿という意見に賛成である。

本論：

【「室内全面禁煙」（又は「喫煙室設置による分煙」）が良かったと思った理由】

なぜなら＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿は、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿からである。

【「喫煙室設置による分煙」（又は「室内全面禁煙」）が良くなかったと思った理由】

一方、〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰は、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿からである。

二つの立場を比べてみると、確かに、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿は、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

というマイナス面も存在する。しかし、この点は＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿によって克服する

ことができる。

また、〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰にも、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿という

プラス面が存在する。しかし、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ので

〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰〰よりも＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿の方が望ましい。

結論：

以上の理由で、私は＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿という意見に賛成である。

図２　レポートの型の例

レポートの型に沿って書いた後に「レポート評価シート」を使用して自己評価を書かせた。「レポート評価シート」は，評価項目および内容は日本留学試験（以下，EJU）の「日本留学試験記述採点基準」を参考に，フォームについては『書くことを教える』（国際交流基金，2010）の作文評価シート例を参考に作成した。

「レポート評価シート」（表 2)を作成するにあたり，まず，評価の観点を決め，目標レベルの産出（書く）の言語活動に必要な言語能力は，今回の評価の観点は「内容面（主張・根拠等)」「形式面（構成・表現等)」とした。次に，評価基準で扱うレベルを決め EJU の記述の評価基準をもとにして基準を記述した。最後に，評価基準の達成度を 5 段階に設定し，初年次教育の目標レベルを段階の達成度の「4」に置き，その少し上のレベルを「5」とした。

表２　レポート評価シート

点	内容面（主張・根拠等）	自己評価	コメント	教師評価	コメント
5	課題にそって，書き手の主張が，説得力のある根拠とともに明確に述べられている。				
4	課題にそって，書き手の主張が，妥当な根拠とともに明確に述べられている。				
3	課題にほぼそって，書き手の主張が，おおむね妥当な根拠とともに述べられている。				
2	課題を無視せず，書き手の主張が，根拠とともに述べられている。しかし，根拠の妥当性に不適切な点が認められる。				
1	書き手の主張が認められない。あるいは，主張が認められても，課題との関連性が薄い。				

点	形式面（構成・表現等）	自己評価	コメント	教師評価	コメント
5	効果的な構成と洗練された表現が認められる。				
4	効果的な構成と適切な表現が認められる。				
3	妥当な構成を持ち，表現に情報伝達上の支障が認められない。				
2	構成，表現などに不適切な点が認められる。				
1	構成が認められない。また，表現にかなり不適切な点が認められる。				

第 15 回の授業では，まとめとして筆記試験を実施した。試験内容は講義内容（語句・文法・読解）からの出題とし，解答様式は，第 1 章，第 2 章および第 3 章の問題 1 は 4 肢選択式（記号を選ぶ問題），第 3 章の問題 2 は記述式（課題文型小論文）とした。

３． 調査結果と考察

調査の対象者は，第 14 回の授業で実施した「レポート評価シート」を書いて提出した学生で，かつ，第 15 回の筆記試験を受けた学生で必要なデータに欠陥値や不備がなかった 31 名である。「レポート評価シート」の自己評価と教師評価は以下の結果となった。なお，表の縦軸は人数，横軸は達成度である。

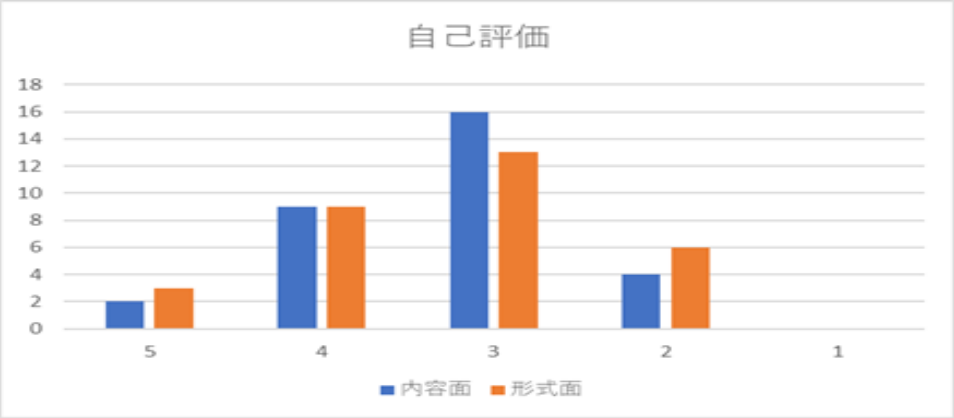

図３　自己評価

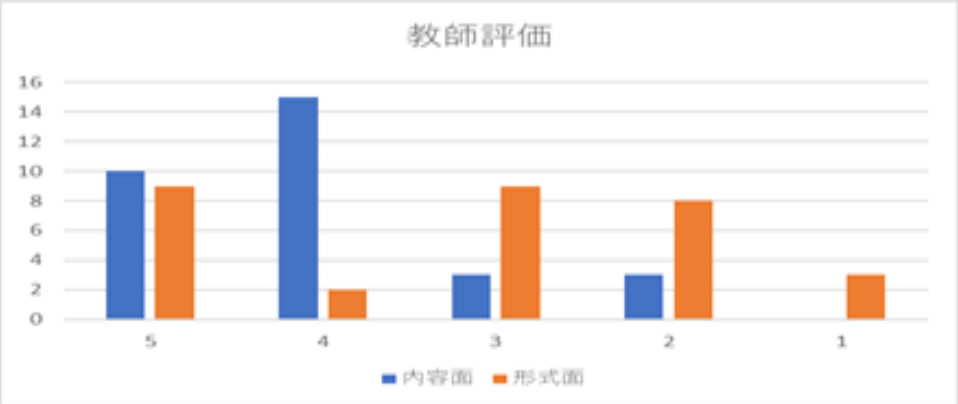

図４　教師評価

自己評価については，内容面および形式面ともに「3」評価が多く中心化傾向が見られた。教師評価については，書かせる前の活動が比較的効果があったのか内容面に関しては問題ない学生が多かった反面，形式面では文体が統一されていない，ねじれ文になっている，句読点などの書き

方のルールに問題がある，段落がなく読みにくいなどが散見された。

また，自己評価と教師評価で差異があった学生は，自己評価で内容面に「5」をつけた学生が教師評価では「3」だった学生が 1 人，自己評価で内容面に「2」をつけた学生で教師評価が「5」だった学生が 1 人，「4」だった学生が 2 人という結果になった。形式面では自己評価に「5」をつけた学生で教師評価が「3」だった学生が 1 名，自己評価で「2」をつけた学生で教師評価が「5」だった学生も 1 人いた。

多くの学生は教師評価との大きな差異は見られなかったが，自己評価が高い傾向にある，あるいは低い傾向にある学生はある一定数はいることが分かった。

コメント欄には以下のような書き込みがみられた。(学生のコメントを訂正せず, そのまま記入)

【内容面についてのコメント】

・根拠が正しいかしっかりしておらず，データをもとに自分の思っている考えをしっかり書き入れてたと思います。
・具体的な理由を掛けている。
・喫煙室設置による分類についてのマイナス面が少なかったかもしれない。
・主張をしっかり書いたと思う。根拠についても概ね書けたと思う。
・あまり自信はないですが，いつもよりは、しっかり書けたと思います。
・文章の例があったから書けたけど，なかったらまともな文章は書けなさそう。
・レポート苦手で，そこらへんのことはわからないですが概ね自分ではできていたのではないかと思います。
・書きたいことを上手にまとめるのが難しく長く読みにくい文章になってしまったので，上手に書けるように練習します。
・少し根拠が雑になった場所がある。
・課題に沿って書くことができたが，字数の問題がかなり内容のないものになってしまったかもしれない。
・文を完成させるのに無理やりな感じがある。
・適切に書けたと思う。
・課題は無視しなかったと思う。
・自分の意見を伝えられていると思う。
・課題に沿って答えることができたと思う。
・しっかり意見をかけた。
・メリット，デメリットの内容がうすい。
・課題には沿って書けたと思うが，説明が不足していたと思います。

・禁煙のことについて、妥当な根拠が並べられたと思う。
・反対の意見と比べた時のこっちの意見の良い所を見つけるのが難しかった。
・理由がちゃんと書いてあり，明確に述べている。
・自分が考えた思っていることを述べたので良いと思う。
・まだ文が変。
・具体例があまり出てこなっかた。
・喫煙者の事を考えて主張できた。
・無視してないけど書けなかった。
・案が思いつかなかった。

【形式面についてのコメント】
・構成はしっかり出来たと思うが，文章表現が難しかった。
・最後の方になると書くところがなくなったりしていたので難しかった。
・良い構成で文章を書けたと思う。
・もっと事実である事例などを書ければよかった。
・表現は深められている。
・文の長さやバランスは良いと思った。
・例文を見て書けた。
・余分な文を書いてる気がする。
・最後ら辺が焦っていて時間がなく変になった。
・書ききれなかった。
・まあまあできた。
・全てを言い切る形にできた。自分の考えが少し入ってしまったかもしれない。
・自分の書き方が入ってしまい，少し不十分になってしまったかもしれない。
・序論・本論・結論に沿ってかけている。
・「、」を入れる場所を間違っているかもしれない。
・序論・本論・結論に沿って概ね書けたと思う。
・自分なりには分かりやすく書けました。
・語彙力が伴わないと感じた。
・構成をよく考え，内容をまとめることがききました。
・自分ではうまく構成できたのではないかと思います。
・テストの際にも誤字脱字に気を付けたいです。
・短所も少しばかり入れようと思ったが，あまり入れることができなかった。

・良くできたと思う。
・うまく例を挙げられたと思う。
・妥当な構成をもてた。
・ある程度は構成はできていると思う。
・効果的な構成が出来たと思う。
・プリント通りできた。

概ね，内容面および形式面の両方で「できた」という肯定的なコメントが多いように見受けられ，書く活動について内発的動機付けができたのではと示唆された。

最後に，自己評価と筆記試験の成績との因果関係を検証するため,「レポート評価シート」で自己評価の高い「4」「5」の上位群,「3」の中位群,「2」「1」の自己評価の低い下位群の 3 つのグループに分けて分析した。筆記試験の分析対象は, 第 1 章と 2 章の「語彙力を測る問題」を対象とし 60 点満点で算出した。自己評価の高い上位群から低い下位群までの筆記試験の平均値および標準偏差は以下のようであった。

表 3　平均値と標準偏差（内容面）

内容面	平均値	標準偏差
上位群（n：11）	42.5	6.15
中位群（n：15）	42.3	7.24
下位群（n：5）	42.2	7.76

表 4　平均値と標準偏差（形式面）

形式面	平均値	標準偏差
上位群（n：15）	41.9	7.75
中位群（n：11）	44.2	5.21
下位群（n：5）	40.2	4.38

内容面でグループ分けした際の平均値は，上位群が 42.5 点，中位群が 42.3 点，下位群が 42.2 点であった。標準偏差は上位群が 6.15，中位群が 7.24，下位群が 7.76 だった（表 3)。また，形式面でグループ分けした際の平均値は，上位群が 41.9 点，中位群が 44.2 点，下位群が 40.2 点であった。標準偏差は上位群が 7.75，中位群が 5.21, 下位群が 4.38 だった（表 4)。

内容面に関しての平均値および標準偏差にはばらつきが大きくないのに対し，形式面でのばらつき具合が見て取れた。特に形式面での下位群では，平均値が他より低く，また，標準偏差値も

他より低い。このことから，下位群の学生は国語力が他より不十分な傾向にあり，国語力との関係は内容面よりも形式面で顕著に表れた。また，形式面では上位群の標準偏差が他よりも値が高かった。このことから自己評価が高い学生の中に国語力が不十分と思われる学生がいたことにより，上位群にばらつきが出たものと考察される。

４．まとめ

今後の課題としては, まず, レポート課題を 1 回だけではなく何度か継続して書かせることで, 変化の過程を見る必要がある。継続して実施できれば,「レポート評価シート」「原稿」などの学習記録をファイル（ポートフォリオ）に保存し，学生と教師が共同で評価するポートフォリオ評価を行うことも可能となる。

また，今回は産出型のパフォーマンスでレポート課題を課し，その際に評価の基準として「レポート評価シート」を作成し，内容面と形式面について評価したが，評価項目や評価基準の記述内容についても更に検討する必要があるかと思われる。

今回はレポートの型を使用して型通りに書かせたため, 学生のコメントにも「書きやすかった」との記述が散見された。もし，ひな形がない状態で書かせた際の結果についても今後，検討する必要がある。なお，第 15 回に行った筆記試験の第 3 章の問題 2 の記述式（課題文型小論文）の問題がそれに該当し，今後，引き続き分析を行っていく予定である。

最後に,「基礎リテラシー（国語)」における授業目標・目的である「日本語の常識的基礎知識の習得を基に，専門分野の論理的理解および自己表現が無理なくできるための国語力，文章力を身につけることを目標とする。(汎用的技能)」の授業が展開きるよう，これからも精進して初年次教育に適した教室活動のあるべき姿を模索していきたい。

参考文献

1）伊東祐郎，日本語教師のためのテスト作成マニュアル，アルク，(2008)

2）岩田貴帆・田口真奈，パフォーマンス課題における自己評価力を高めるための協働ワークを取り入れた相互評価活動の開発，日本教育工学会論文誌，43，173-176，(2020)

3) 岡村裕美, 大学初年次生に指導が必要な語彙 : 作文テストで見られる語彙の特徴から, 共通教育研究紀要 (2) ,63-74，2017

4)国際交流基金，国際交流基金　日本語教授法シリーズ　第 8 巻「書くことを教える」ひつじ書房, (2010)

5)国際交流基金，国際交流基金　日本語教授法シリーズ　第 12 巻「学習を評価する」ひつじ書房，(2010)

6)西谷尚徳，文章六養成のためのルーブリック活用の教育的意識の検討－授業実践から見る教育手法－，京都大学高等教育研究，23,25-35，(2017)

7)二通信子・佐藤不二子, 留学生のための論理的な文章の書き方，スリーエーネットワーク，(2000)

8)日本学生支援機構, 日本語「記述」について, (2017)
（https://www.jasso.go.jp/ryugaku/eju/about/score/writing.html）（2023 年 1 月 24 日）
9)ヒューマンアカデミー，日本語教育能力検定試験完全攻略ガイド第 5 版，翔泳社，（2021）
10)本田直也, ルーブリックを用いたピアレビュー方式によるレポート指導法の設計, 大手前大学論集, 17,149-168,（2017）
11)京祥太郎, ルーブリックを取り入れた学部留学生における初年次教育, 至誠館大学研究紀要, 3,55-60,(2016)
12)文部科学省学術分科会（第 29 回）・学術研究推進部会（第 22 回）合同会議,「学士課程教育の構築に向けて」中央教育審議会答申の概要,
（https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/siryo/attach/1247211.htm）（2023 年 1 月 24）
13)山田嘉徳・岩崎千晶・森朋子・田中俊也，初年次教育での学習活動における学びと評価をめぐる教授・学習論的検討，関西大学高等教育研究，第 7 号，79-90，(2017)